

### 第3回 循環経済拠点港湾(サーキュラーエコノミーポート)のあり方に関する検討会 議事要旨

日時：令和7年3月14日(金) 15:00～16:20

場所：一般財団法人 みなと総合研究財団 会議室

- 
- 資料について、事務局より説明した。
  - その後の意見交換において、「循環経済拠点港湾(サーキュラーエコノミーポート)のあり方について(案)」について、委員から以下の主な意見があった。
  - 委員からの意見を踏まえ、事務局において「循環経済拠点港湾(サーキュラーエコノミーポート)のあり方について(案)」を修正し、内容については、座長(小野田委員)に一任することが了承された。

(主な意見)

「循環経済拠点港湾(サーキュラーエコノミーポート)のあり方について(案)」の全体について

- ・委員の意見がしっかり反映されており、よくまとまっている。
- ・まず1か所でも良いので実現に向けて検討してほしい。経済原則から言えば大量に物が集まり、高度な分別処理ができる場所なら循環がうまく回るのではないかな。
- ・次の5年間でサーキュラーエコノミーへの移行にとって重要。関係者が増えるのに合わせてCEポートへのユーザーニーズを掘り起こしながら施策等のアップデートをすべき。

#### 2. 我が国における資源循環を巡る経済・社会環境の変化と国内外の取組事例

##### 2(6) 海外港湾におけるサーキュラーエコノミーへの移行に向けた取組

- ・事例の中で紹介しているESPO賞について、どのようなことが評価されて受賞に至ったか理由を記載した方が良いのではないかな。

##### 2(7) 国内港湾におけるサーキュラーエコノミーへの移行に向けた取組

- ・国内港湾の事例紹介だけとなっている。例えば「このような動向が出てきているため、サーキュラーエコノミーの議論とも連携させていくことが有効である」等の繋がりを記載した方が良いのではないかな。

#### 4. 今後の資源循環において港湾が目指すべき方向性

##### 4(2) 循環経済における海上輸送拠点の形成

- ・サーキュラーエコノミーポートの要件としてI～Vがあげられているが、要件のハード

ルが上がって事業者には過度な負荷にならないようにしてほしい。

- ・リサイクルポートの取組みは、サーキュラーエコノミーポートの取組みの先駆けと言えるものであり、「その取組を深化することが望ましい」との基本スタンスに立って、サーキュラーエコノミーポートの各種施策の取組を進めてほしい。

#### 4（3）サーキュラーエコノミーポート政策での主な取組

- ・循環資源の国内の流動については触れているが、輸入については触れていない。適正な国内循環を促した上で、サーキュラーエコノミーの拠点として世界から選ばれる港湾（物流拠点）になる必要があることを触れることを検討してはどうか。
- ・流動の見える化、取扱運用の緩和、官民連携が重要。次のステップでは、特区を作ることや制度を変えることなどユーザーの事業ニーズを増やす施策が必要となるのではないかな。
- ・国内での循環が重要。不適正な海外流出があるために、適正な循環資源の取扱いが制約されている。不適正な海外流出は本気で止めなければならない。
- ・国の補助については循環資源の積替・保管施設のみならず、荷役能力の向上、効率化、スムーズな搬出も重要な港湾機能の高度化のポイントとなる。支援制度の見直しの際は、港湾機能高度化施設整備費補助のなかの貨物積替円滑化支援施設の水深要件の緩和や、循環資源取扱支援施設に「荷役」というキーワードを明記するなどの検討を行っていたきたい。
- ・今後、国内輸送の手段の一つとして、鉄道を利用する観点を検討しても良いのではないかな。港湾の周辺まで線路が敷設されているところもあるため、集約若しくは配分に貢献できる可能性がある。

#### 概要版

- ・サーキュラーエコノミーポートのイメージについて、循環資源を搬出入ともに行わなければならないようなイメージとなっており、ハードルが高く感じてしまう。サーキュラーエコノミーポートは各港湾で機能が異なる点を反映できることが望ましい。

以 上